科目名	人間論B（自然科学）
単位数	2.0
担当者	曽雌崇弘
履修時期	前期授業（集中）
履修対象	大学院1,2年生
講義形態	講義
講義の目的	現代は、複雑な時代とよく言われるが、よく考えてみると、それほど自明ではない。本講義では、複雑性にかかわるいくつかのテーマを扱う。テーマは、「環境」、「あいまい性」、「言語」、「意思決定」を含み、学生は、各テーマについて基本的な知見や概念を学び、それらがどのように複雑性と関わるのかについて、経験や知識を参照しながら考え、理解する。
到達目標	学生が、これまでの経験と知識に基づき、客観的な視点から分析できる思考力や主体性を強化することを目標とする。
受講要件	特になし
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	各テーマの終了時に、用語説明テスト(4回)により、概念の理解を深める。全講義終了後、自ら選択した一つのテーマに関して、考えをまとめ、レポートを作成する。
講義内容	1. はじめに:“複雑さ”とは何か？ 2. 外的環境の複雑性(1):人間が住む「都市」 3. 外的環境の複雑性(2):生物が生息する「都市」 4. 内的環境の複雑性: 身体・脳の変化 (覚醒・睡眠、加齢) 5. “あいまいさ”の種類(1):曖昧性、不可能性、不確実性 6. “あいまいさ”の種類(2):続き 7. “ことば”の複雑性(1):言語の多層性 (意味、文法、文) 8. “ことば”の複雑性(2):言語の使用 9. “ことば”の複雑性(3):言語と脳 10. 自分でも“気づけない”意思決定(1):意思決定と情動 11. 自分でも“気づけない”意思決定(2):意思決定と環境/状況 12. 自分でも“気づけない”意思決定(3):意思決定と脳 13. ガブリエルの哲学的世界観(1):「新実存主義」とは？ 14. ガブリエルの哲学的世界観(2):続き 15. まとめ
期末試験実施の有無	実施する
評価方法・基準	用語説明テスト(40点)とレポート(60点)により評価する。評価基準は「広島市立大学成績評価に係るガイドライン」に従う。レポート内容の評価は、以下の3点に基づき行う。(1)テーマを適切に理解しているか、(2)テーマについて、独自の観点から論じているか、(3)記述が論理的に行われているか。
教科書等	【参考書】(1)岡本裕一朗「いま世界の哲学者が考えていること」(ダイヤモンド社)、(2)マルクス・ガブリエル「新実存主義」(岩波新書)、(3)隈研吾・清野由美「新・都市論TOKYO」(集英社新書)、(4)メノ・ハウゼン「都市で進化する生物たち」(草思社)、(5)高橋昌一郎「理性の限界 不可能性・不確定性・不完全性」(講談社現代新書)、(6)イアン・ハッキング「言語はなぜ哲学の問題となるのか」(勁草書房)、(7)西村義樹・野矢茂樹「言語学の教室」(中公新書)、(8)川越敏司「意思決定の科学 なぜ、それを選ぶのか」(ブルーバックス)、(9)アントニオ・ダマジオ「デカルトの誤り 情動、理性、人間の脳」(ちくま学芸文庫)
担当者プロフィール	医療系研究機関で研究室長をしている。言語、記憶、意思決定などの、ヒトの情報処理過程に関して、認知神経科学や信号処理の手法を用いて研究を行っている。
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	学生の論述回答に対してフィードバックを行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
キーワード	複雑さ、環境、あいまいさ、自然言語、意思決定、認知科学
備考	

閉じる

科目名	国際関係と平和
単位数	2.0
担当者	吉川 元
履修時期	後期
履修対象	特に指定なし
講義形態	講義
講義の目的	20世紀初頭から今日に至るまでの国際平和と国際安全保障の実現に向けた国際社会の取組みについて講義します。難民は7000万人を超え、世界各地で自由化は後退し、民主化も滞っています。東アジアの国際関係は過去、最も緊張しています。世界はどれだけ平和になったのでしょうか。人々はどれだけ安全になったのでしょうか。国際社会の平和への取り組み、および安全保障政策とその諸問題の分析を通して、今日の平和と安全保障の危機の構造を探ります。
到達目標	戦争と平和の歴史をたどりつつ、平和観と安全保障観の変容について知識を習得するとともに、平和観と安全保障観の変容が国際関係の仕組みや国際政治システムの変容に与えた影響について理解を深める。
受講要件	特になし
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	テキストを事前に読み、質問を用意する。
講義内容	国際平和秩序は、誰が、いつ、どのように確立するのでしょうか。戦争は無条件に否定されねばなりません。だからといって平和は必ずしも人間の安全を保障するとは限りません。国際関係の歴史を一瞥すれば、平和というものはそのあり方しだいで人間の安全を脅かしてきたことが明らかです。20世紀初頭から今日に至るおよそ百年間に、時の権力者（統治者）による民衆殺戮（人民の大量殺戮）の犠牲者数が戦争の犠牲者数を上回っている事実は、平和が必ずしも人間の安全を保障するとは限らないことを意味しています。平和とは一体、誰のための、何のためのものでしょうか。安全保障とは一体、誰の安全の保障なのでしょうか。こうした疑問を紐解くために20世紀から今日に至るまでの戦争様式の変化、国際平和秩序の変容、安全保障概念の変容について、その歴史をたどります。同時に、戦争原因を国際政治システムに内在する矛盾のみならず、統治システム(ガバナンス)に内在する矛盾にも見出し、また民衆殺戮の原因をガバナンスと国際政治の相互作用に見出し、国際平和と人間の安全保障の双方の実現を目指す平和創造の方法について考察します。 【授業内容】 1. 平和とは何か、誰のための安全保障か(序論) 2. アナーキカル社会の組織化 3. 第一次世界大戦と立憲主義的国際秩序 4. 平和主義の1920年代 5. 危機の1930年代 6. 第二次世界大戦と民族強制移動 7. 戦争の裁きと平和秩序の再編 8. 欺かれた人権尊重の平和 9. 帝国主義の終焉と人民の戦争 10. 人民を抑圧する人民の政府の論理 11. 人間の安全を脅かす平和秩序 12. 新戦争とアイデンティティ政治 13. 民主化と民族紛争 14. 再びガバナンスを問い始めた国際社会 15. 安全保障共同体の創造に向けて
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	授業参加度（30%） 講義での積極的な発言（30%） 特別課題（レポート）40%
教科書等	【教科書】吉川元『国際平和とは何か—人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』（中央公論新社、2015年）。 【主要参考文献】吉川元「グローバル化と安全保障パラダイム転換」初瀬龍平・松田哲編『人間存在に国際関係論』(法政大学出版局、2015年）；吉川元『民族自決の果てに』（有信堂、2009年）を参照してください。
担当者プロフィール	
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	レポートについてコメントを付したものを返却します。
アクティブ・ラーニング	
キーワード	平和、アイデンティティ政治、安全保障共同体、ジェノサイド、民衆殺戮、民族マイノリティ
備考	

閉じる

科目名	日本論
単位数	2.0
担当者	准教授 山口えり
履修時期	前期
履修対象	博士前期課程1、2年
講義形態	講義
講義の目的	諸外国の様々な文物を柔軟に取り入れて、日本独自の文化へと発展させてきた日本の思考について学ぶことが目的です。講義が中心ですが、「日本」をテーマとした作品、文化財と接することも重視します。
到達目標	「日本」における様々な事象が、「変遷」しながら、「継承」されていることを理解する。合わせて、こうした現象について、具体例をあげながら学術的に説明できるようになる。
受講要件	各々の専門的な研究の意義を、日本ひいては世界の中で、どのように位置づけられるのかという問題意識を持って参加すること。
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	授業で紹介する事物・場所のうち、少なくとも一つには直接ふれて、日本ないし日本文化を理解する感性や知識を養うこと。
講義内容	1. 4月12日 オリエンテーション「人文学の危機」とは？ 2. 4月19日『日本書紀』1300年をふりかえる①—史料の性格を考える— 3. 4月26日『日本書紀』1300年をふりかえる②—残された課題とは— 4. 5月10日 日本古代の疫病対策 —日本初のパンデミック記事から何を読み取るか— 5. 5月17日 古代国家の形成と疫病 6. 5月24日 疫病と古代の人々の心性 7. 5月31日 特別講義「日本文化の世界への発信—歴史用語の英訳の現状と課題」 8. 6月7日 疫病と世界 9. 6月14日 日本研究の歴史 —Eastern Influence— 10. 6月21日 信長・秀吉と世界 —大航海時代の世界と日本① 11. 6月28日 家康と世界 —大航海時代の世界と日本② 12. 7月5日 日本研究の歴史 —Western Impact— 13. 7月12日 日本研究の現在 14. 7月19日 学期末課題について 15. 7月26日 まとめ（学期末課題形式） ＊受講人数、学生のプレゼンテーション・特別講義の日程、学外環境、また、日本文化に関する重要な出来事が起きた場合など、シラバスは変更します。
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	授業姿勢 40% 学期末課題 60%（日・英、いずれかで提出）
教科書等	必要に応じて資料を配付します。
担当者プロフィール	政治経済学部政治学科で日本思想を学んだ後、文学部および文学研究科で、日本文化史を学んできました。歴史の表層から隠れてしまった日本の文化や思想を顕在化させ、それらの蓄積がいかにして形成され、発展してきたのかを明らかにしたいと考えています。 拙著『古代国家の祈雨儀礼と災害認識』（塙書房、2020年）参照。 研究室：国際学部棟 634
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	プレゼンテーションを行った場合には、質疑応答を行う。 学期末課題については、後日講評を行う。
アクティブ・ラーニング	振り返り プレゼンテーション（学生と相談の上、研究や作品を発表する機会を設ける場合もある）
キーワード	日本文化・信仰・災害史・国際日本学
備考	基本的にはオンラインで行う予定。

閉じる

科目名	科学技術と倫理
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 八重樫 徹
履修時期	前期（集中講義）
履修対象	博士前期課程1、2年次
講義形態	講義
講義の目的	倫理学の基本を学んだ上で、市民として科学技術とどう付き合っていくのかに重点を置きながら、科学技術にまつわる現代のさまざまな倫理的問題を考える。
到達目標	1. 基本的な倫理学の知識と科学リテラシーを身につける。 2. 科学とテクノロジーが人類の歴史の中でどのような倫理的問題を引き起こしてきたのかについて知識を得る。 3. 新たなテクノロジーの社会への導入について客観的な判断ができるようになる。
受講要件	特になし
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	事前・事後学修のためのプリントを配布する(課題を課す)。
講義内容	1.はじめに 2.倫理学はどのような学問か 3.義務論 4.功利主義 5.徳倫理 6.科学技術（者）倫理は何を問題にしているのか 7.科学とは何か、技術とは何か 8.AI・ロボットと倫理 9.情報技術とプライバシー 10.事故と災害 11.原子力と倫理 12.気候変動と倫理 13.生命技術と倫理 14.科学リテラシーと社会 15.まとめ
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	各回の授業内課題（50%） レポート（50%）
教科書等	なし。各回の授業で資料を配布し、参考書を紹介する。
担当者プロフィール	広島工業大学工学部准教授。専門は哲学・倫理学。
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	授業内課題については授業中にそのつどフィードバックをおこなう。レポートについては提出後にWebClass上でフィードバックをおこなう。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
キーワード	倫理学、テクノロジー、社会、人工知能、プライバシー、気候変動、災害、生命科学
備考	

閉じる

科目名	情報と社会
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 神野新 非常勤講師 桑原俊
履修時期	前期（集中講義）
履修対象	博士前期課程1、2年次
講義形態	講義
講義の目的	デジタル化、IP化による情報通信技術（ICT）の急速な進化は、IoT、ビッグデータ、AIなどの活用を通じて、電気通信や放送の枠内を大きく超えた社会経済全体に波及しつつある。すなわち、コンピュータ及びそれらを連結するネットワークシステムが重要な社会インフラとなり、私たちの日々の生活や社会情勢、そして企業活動を大きく変革しつつある。 本講義ではICTの発展を俯瞰した上で、社会、経済、消費者及び企業行動、国際関係等に与える影響と問題を把握し、今後、どのように問題に対処すれば良いかを検討する。
到達目標	自然科学、社会科学の区分や専攻の枠を越えて、情報化が社会、産業、生活すべての課題解決手段の中核となることを理解し、その応用、発展にいかに自らが参画できるのかを考察することができる。（知識・技能、思考力・判断力）
受講要件	特になし
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	前もって提示された課題について情報収集、考察に努め、その解決に向けた独創的かつ主体的な提案を期待している。
講義内容	第1回（神野）全体の講義内容の概説（リアルタイム） オリエンテーションとして講義の全体像と各回の概要を解説し、参考図書（資料）の紹介を行う。その上で、講義の進め方や分析の視点について説明する。 第2回（神野）社会における情報化の進展（リアルタイム） IoT、ビッグデータ、AIなどの活用で加速するデータ主導経済が社会変革に及ぼす影響の実態と今後の方向性について概説し、その課題を整理して提示する。 第3回（神野）情報通信産業を支える技術、業種、事業者（オンデマンド） 情報通信産業の発展を支える技術進歩を俯瞰し、同産業を構成する電気通信、放送、ケーブルテレビ、プラットフォーマーなどの業種区分や市場構造を説明する。 第4回（神野）情報通信産業の現在、過去、未来（オンデマンド） 日本を含む主要国の情報通信産業に競争が導入されて市場が自由化された1980年代から現在までの状況を俯瞰し、同産業が今後どこに向かおうとしているのかを解説する。 第5回（神野）情報化が企業行動、個人行動に与える影響（リアルタイム） 情報化による企業行動の変化と効率化の実態を説明する。同様に、個人行動の変容についても言及する。 第6回（神野）情報通信における融合サービスの構造と課題（リアルタイム） ネットワーク、プラットフォーム、コンテンツ・アプリケーションの連携が生み出す融合サービスの展開の経緯と現状を説明し、今後の課題について論じる。 第7回（神野）ネットワーク事業者とプラットフォーマーのビジネスモデル分析（オンデマンド） 情報通信産業のレイヤー構造について分析した上で、その主要な構造要素であるネットワーク及びプラットフォーム市場で活動する事業者がいかなるビジネスモデルを追及しているのか比較検証する。 第8回（神野）課題レポートの作成（1）（レポート） 講師が指定する教材に基づいた課題についてレポートを作成する。 第9回（桑原）社会における情報化の進展と法制度の課題－名誉毀損を例に（リアルタイム） 社会における情報化の進展に、法制度がどのように対応しているのか（していないのか）、インターネット上の名誉毀損を例に説明する。 第10回（桑原）プライバシー・個人情報保護（リアルタイム） プライバシー権とは何か、判例上どのように保護されてきたか、現代的なプライバシー権の課題は何か等について説明する。その上で、プライバシーと個人情報の違い、個人情報保護法の背景、内容、課題等について説明する。 第11回（桑原）課題レポートの作成（2）（レポート） 講師が指定する教材に基づいた課題についてレポートを作成する。 第12回（神野）ネットワーク市場とプラットホーム市場の競争構造と規制議論（リアルタイム） 情報通信産業を構成するネットワーク及びプラットフォーム市場における競争上の特徴と課題を整理し、どのような規制議論が展開されているのかを解説する。 第13回（神野）プラットフォーマーとメディアの競争と共創（リアルタイム） プラットフォーマーとメディア（新聞、雑誌、テレビなど）の間で展開されている「競争」と「共創（協力）」の構図を

	示し、その特徴や今後の展開について俯瞰する。 第14回（神野）情報通信が社会的課題解決に果たす役割（オンデマンド） 少子高齢化により「課題先進国」と称される日本の諸問題の解決において、どのような情報化技術やサービスが貢献しうるのか説明する。また、情報化技術から生み出されるソリューションが、地方創生やスマートシティの実現に果たすべき役割について考察する。 第15回（神野）課題レポートの作成（3）（レポート） 講師が指定する教材に基づいた課題についてレポートを作成する。
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	・日常点（授業及び議論への参加状況）55% ・課題レポート（期中に3回作成して発表）45%
教科書等	初回の講義において紹介、説明を行う。（総務省の情報通信白書（無料）を予定）
担当者プロフィール	神野新（㈱情報通信総合研究所 法制度研究部 主席研究員） 桑原俊（順天堂大学大学院医学研究科 客員准教授、弁護士）
講義に関連する実務経験	神野はNTT、情報通信総合研究所（社会科学系シンクタンク）に通算40年の勤務、桑原は情報通信総合研究所（同）に10年の勤務経験を有する。
課題や試験に対するフィードバック	履修者の専攻や興味分野に即した課題（レポートテーマ）を設定する。 提出されたレポートに対して総評を行う。
アクティブ・ラーニング	
キーワード	情報通信（ICT）、ネットワーク産業、デジタルプラットフォーム市場、メディア、IoT、5G
備考	・土曜日に集中講義の形で実施。（「4コマ×3日（神野）」、「3コマ×1日（桑原）」の計4日間で15コマを行う） ・講義の実施形態は「授業内容」の各回の記載の通り。すべての回をオンライン講義（リアルタイム、オンデマンド、レポートの組み合わせ）とする。

閉じる

科目名	道具論
単位数	2.0
担当者	教授 吉田 幸弘 ほか
履修時期	後期（第4ターム）
履修対象	博士前期課程1、2年次
講義形態	講義
講義の目的	広島から、道具がどのような存在であるかを論じ、人間が生きていく為に、周囲の世界と交わした対話、それが道具であるならば、人間とともに新しい、この道具世界に、いかに対座するかを追求する。 『もの』と人間の精神復興を願い、身の回りの品々をあらためて再考し、生活革新への指針を示す。 道具存在論、道具が開く文明と文化の歴史、過去と現在、未来論、形態と機能、美意識の国際比較、美術、工芸とインダストリアルデザインとの違いなど、道具を使う立場、つくる立場、考える立場、商う立場にとっての様々な道具のありようを理解する。
到達目標	広島に根ざした地場産業の道具を知り、その機能や目的を説明できる。 身の回りの品々をあらためて再考し、生活革新への足掛かりを掴むことができる。
受講要件	・「都市論（第3ターム科目）」を合わせて受講することが望ましい。
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	栄久庵憲司の著書「道具論」等、出版物を後期中に読むこと。
講義内容	第 1回 及川 栄久庵憲司と広島 第 2回 及川 道具論とは 第 3回 上田 茶と道具?茶道上田宗箇流 茶の湯の心? 第 4回 三上 作り手と使い手Ⅰ?鍛冶道具? 第 5回 三上 作り手と使い手Ⅱ?日本刀? 第 6回 村田 道具と表現Ⅰ?熊野書筆? 第 7回 村田 道具と表現Ⅱ?熊野化粧筆? 第 8回 石田 日常のくらしから生まれる工夫する余地ある道具1?家具? 第 9回 石田 日常のくらしから生まれる工夫する余地ある道具2?インテリアの道具? 第10回 高橋 移動する道具Ⅰ?身体と道具のかかわりを具体的事例を交え学ぶ? 第11回 鈴木 移動する道具Ⅱ?公共空間と道具のかかわりを具体的事例を交え学ぶ? 第12回 吉田 愛しき道具たち?道具に寄り添う・人に寄り添う? 第13回 吉田 道具と都市?都市の視座から道具を考える? 第14回 山田 生命の誕生と道具の誕生?「自然と不自然」の相関を考察する? 第15回 山田 文明の進展と道具の関わり?「道具と人類の未来」から考察する? ※授業の順序は変更することがある。 ※上記とは別に期末レポートを実施する。
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	・授業の理解度を測るため毎回授業感想レポートを提出。 ・テーマを与え期末レポートを提出 ・上記に授業の参加度を加え総合評価とする。 授業参加度15% 授業感想レポート35% 期末レポート50%
教科書等	・パワーポイントまたはキーノートを用いて講義。 ・テキスト、参考資料は各担当講師が指示ないし配布する。
担当者プロフィール	及川久男（広島国際学院大学）教授 上田宋冏（茶道上田宗箇流）十六代目家元 山田晃三（GKデザイン機構）相談役 村田隆志（大阪国際大学国際教養学部）准教授（筆の里振興事業団）特別研究員 石田一人（共立女子大学家政学部）教授 高橋康介（マツダデザイン本部）デザインエキスパート 鈴木すばる（GKデザイン総研広島）部長 三上高慶 刀匠 吉田幸弘（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科立体造形教授）研究室：芸術学部棟3階 345研究室 プロダクトデザインや景観デザインを専門とし、歴史的建造物の復元や創造的まちづくりを主な研究テーマとして実践している。
講義に関連する実務経験	吉田幸弘 車メーカーで5年間カーデザイン関連の業務を行う
課題や試験に対するフィードバック	・提出したレポートや作品は後日講評する。
アクティブ・ラーニング	
キーワード	・道具、広島、歴史、文明

備考	

閉じる

科目名	都市論
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 杉本俊多， 非常勤講師 水田 丞， 非常勤講師 千代章一郎, 非常勤講師 森本真, 非常勤講師 遠藤吉夫 責任者（ 吉田幸弘 ）
履修時期	後期（第3ターム）
履修対象	博士前期課程1、2年次
講義形態	講義
講義の目的	グローバル化やマルチメディア技術の普及とともに都市はますます不可視となってきた。機械化、ネットワーク化する都市は、他方で生命体としての人間のエコロジー回帰を促してもいる。そもそも都市とは何だったのか、歴史の原点に遡り、かつ未来都市を構想しつつ、また視野を広く地球規模に広げて、世界に知られる都市広島においてこそ論じなければならない。21世紀の都市像とそのデザイン方法について実践事例や現地見学を含めた解説を通じ国際平和文化都市広島の成り立ちを理解する。
到達目標	建築デザイン、都市デザイン、まちづくりの観点から、都市の解釈方法、デザイン方法を説明できる。 都市空間の構成について理解し、将来の都市デザインに向けて、自身の視点で思考し説明できる。
受講要件	・「道具論（第4ターム科目）」を合わせて受講することが望ましい。
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	各回の授業感想レポートを200時程度にまとめ授業後提出する。
講義内容	第 1回 吉田 イントロダクション・広島の都市軸 第 2回 杉本 広島の都市空間形成史 第 3回 杉本 近代広島の都市空間 第 4回 杉本 聖地都市デザインの系譜 第 5回 杉本 ベルリンの都市空間形成史 第 6回 吉田 広島のまちづくり1?南北の軸線? 第 7回 吉田 広島のまちづくり2?歴史と記憶?（現地講義） 第 8回 水田 現代の都市・建築空間1?近代? 第 9回 水田 現代の都市・建築空間2?現代? 第10回 森本 他都市圏の建築?エクステリア? 第11回 森本 他都市圏の建築?インテリア? 第12回 遠藤 広島の建築1?公共空間? 第13回 遠藤 広島の建築2?住宅? 第14回 千代 ル・コルビュジエの都市論1?異化と同化? 第15回 千代 ル・コルビュジエの都市論2?見るもの／見られるもの? ※授業の順序は変更することがある。 ※上記とは別に期末レポートを実施する。
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	・授業の理解度を測るため毎回授業感想レポートを提出。 ・テーマを与え期末レポートを提出 ・上記に授業の参加度を加え総合評価とする。 授業参加度15% 授業感想レポート35% 期末レポート50%
教科書等	・パワーポイントまたはキーノートを用いて講義。 ・テキスト、参考資料は各担当講師が指示ないし配布する。
担当者プロフィール	杉本俊多（元広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門教授 建築史・意匠学） 水田 丞（広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門准教授 日本近代建築史） 千代章一郎（島根大学学術研究院環境システム科学系教授 建築史・意匠学） 遠藤吉夫（元広島工業大学環境学部建築デザイン学科准教授） 森本真（武庫川女子大生活環境学科准教授） 吉田幸弘（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科立体造形教授）研究室：芸術学部棟3階 345研究室 プロダクトデザインや景観デザインを専門とし、歴史的建造物の復元や創造的まちづくりを主な研究テーマとして実践している。
講義に関連する実務経験	吉田幸弘：広島市景観審議会委員
課題や試験に対するフィードバック	・提出したレポートや作品は後日講評する。
アクティブ・ラーニング	現地視察
キーワード	・広島、歴史、復元、景観、創造的まちづくり
備考	全ての回原則オンラインで開催します 一部（6,7回）は広島市内中心部での現地授業があります。

閉じる

科目名	ヒロシマと核の時代
単位数	2.0
担当者	Robert Jacobs and guest speakers
履修時期	Spring Semester
履修対象	1st and 2nd year students. Master's Program
講義形態	講義
講義の目的	To learn about nuclear history from many different vantage points. Students will learn about the history of the nuclear attacks on Hiroshima and Nagasaki, subsequent nuclear weapon developments. Then students will learn from numerous guest speakers on Peace Culture in Hiroshima, and also on perspectives about the attacks on Hiroshima and Nagasaki from the vantage points of numerous countries in the region and globally.
到達目標	To understand the complexities of the Nuclear Age both from the perspective of Hiroshima and also the rest of the world
受講要件	All lectures and reading materials will be in English. Students must have a competent reading and discussion ability in English.
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	Read all the materials before and after attending the class and actively participate in all class discussions.
講義内容	Tentative Schedule: Section 1 History of Nuclear Weapons including Hiroshima & Nagasaki: Dr. Robert Jacobs 1. The Manhattan Project and the bombing of Hiroshima and Nagasaki 2. The development of nuclear weapons since 1945 3. The history of nuclear weapon testing around the world 4. Nuclear colonialism and global hibakusha 5. The nuclear Anthropocene Section 2 Hibakusha: Experience of Hiroshima and Nagasaki 6 Hibaku taiken (Atomic Bomb survivor's experience) 7 Hiroshima seen from the Eyes of Experienced Guide and Interpreter in Hiroshima 8 Issues of Korean Victims in Hiroshima and Nagasaki 9 To cultivate the Truth and report as TV documentary 10 Effort to Convey the experience Atomic Bomb Legacy Successors (Hiroshima City has been cultivating successors since the FY 2012 to pass down the survivors' stories and wishes on their behalf. The first A-bomb Legacy Successors completed a three-year training course and started their activities in the FY 2015.) Section 3 Dialogue and Discussion with Specialists on "Hiroshima" 11 Korean View on Hiroshima 12 German View on Hiroshima 13 Chinese View on Hiroshima 14 US Media and A-bombing 15 Final review
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	Attitude at class such as discussion and presentation (40%), and the final project paper (60%)
教科書等	No text book. Reading materials will be given at the class.
担当者プロフィール	Robert Jacobs is a professor working on the social and cultural aspects of nuclear technologies. His work focuses on the experiences of radiation exposed populations, and the representation of nuclear technologies in culutre and art.
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	The assignment will be returned with comments and guidance
アクティブ・ラーニング	
キーワード	Nuclear Weapon, Hiroshima & Nagasaki, Manhattan Project, Anthropocene Hibakusha (Atomic Bomb survivor)
備考	

閉じる